

地質リスクマネジメント事例研究セッションの原稿作成における留意事項

2026年3月 地質リスクマネジメント委員会

1. はじめに

2026年度から地質リスクマネジメント事例研究セッションにおける原稿作成方法を変更いたしました。主な変更点は以下の通りです。

- ① 事例のデータ様式の提出を廃止します。それに伴い、マネジメント効果のうちコスト削減効果については、発注者も認めるような重要なものに限り本文中に記載してください。
- ② 執筆要領は一般セッションと同様とします。ただし、ページ数は2または4ページとします。

2. 事例のタイプ分け

事例の種類は以下の3タイプとします。

- A型:地質リスクを回避した事例
- B型:地質リスクが発現した事例
- C型:発現した地質リスクを最小限に回避した事例

ただし、その他として、これら以外の地質リスクマネジメントに関連した研究発表も歓迎します。

なお、ご提出頂いた論文が、本セッションより他のセッションに適していると判断される場合には、セッション変更をお願いする場合があります。

3. 論文の内容

事例論文は、地質リスクマネジメントへの取り組みやその効果を関係者間で共有し、本分野の発展に生かすために、以下のような要点を参考にして取りまとめてください。

- 1) 地質・地盤等の不確実性の特定
- 2) 地質・地盤等の不確実性の程度の見極め
- 3) 地質・地盤等の不確実性への対応策
- 4) マネジメント効果

ここでいうマネジメント効果は、事業に影響する地質・地盤等の不確実性低減のためのプロセス改善や新技術導入などより達成する事業の効率化と考えるべきです。そして、コスト削減効果は、例えば工期短縮など効率化の結果として得られる副次的な効果ととらえるべきと考えます。

なお、マネジメント効果としてコスト低減が明らかな場合には、定量的なコスト比較や効果を本文中に記載してください。このとき、効果の定量化に対する考え方は、『地質リスクマネジメント入門』(地質リスク学会・全地連共編、p.49)に従ってください。

※マネジメント効果の記載について

マネジメント効果の考え方	<ul style="list-style-type: none">・効率化(プロセス改善、新技術導入等)を中心に記述・コスト削減は「効率化の結果として得られた副次的効果」と整理・ただし、効果が明確な場合は定量比較を本文に記載
--------------	---